

## 第9回 令和の魅力と活力ある県立高校のあり方検討委員会 議事概要

1 日 時 令和5年5月9日(火) 10:00~11:05

2 場 所 富山県民会館 401号室

3 委員出席者 金岡 克己 牧田 和樹 伊東 潤一郎 稲田 裕彦  
近藤 智久 品川 祐一郎 白江 勉 白江 日呂雄  
鈴木 真由美 能作 千春 本江 孝一 松山 朋朗  
本島 直美

### 4 会議の要旨

司会が開会を宣した。

#### 議事事項

##### ○ 令和の魅力と活力ある県立高校のあり方に関する報告書(案)

事務局から資料に基づき、本会における検討事項の確認と検討に当たって参考とする事柄などについて説明した。

(委員長)

今ほどご説明いただいた報告書案についての修正やこれを踏まえた今後の課題、最終の意見表明をお願いします。

(委員)

検討会議を重ねてきた最終報告書であり、今までもいろいろと意見を言わせていただいたので、特にはないのですが一点だけ意見を言わせていただきます。

例えば、21ページの工業系のところを参照すると、「配置や定員、再編統合にかかる具体的な検討」とありますが、それを行っていただく際に、社会のニーズや今のトレンドをもう少し意識して、学校や学科の設置をしていかなければならないと大変強く感じています。

募集定員もそうなのですが、職業柄、やはり機械系のものづくりの仕事の学生数が多いのが一番理想です。しかし、今の社会が求めているものは情報系などです。そういった学科の設置というものが非常に少ないような気がします。工業系だけではなく、商業系、他のところでも社会のニーズに合わせて学科を設置していくということをもう少し検討されたらどうかということ意見を言わせていただきます。

(委員)

第1回から参加させていただいて、よい報告書がまとまったのではないかと思います。これは特に年限というか期間が設定されていないので、これからのあり方ということで作られた報告書案ですが、中期的な仕切りはないにしても、約5年は何とか機能していくような報告書ではないかと思います。いろいろものを取り込み、いろいろな案を入れ込んだ

報告書になっているので、そういう意味では非常に配慮された報告書になっているのではないかと思います。

これは再三申し上げていることですが、教育はもう少し長いスタンスでビジョンを描きながら行っていかなければならないと考えています。しかし、いろいろな変化が激しく、生徒数減少がこれから一段と加速されていくことを踏まえると、何が起こるかわからないので、あまり遠いビジョンで考えるのは少し難しいと思います。少なくとも人口動態はかなりはっきりしているので、そこを踏まえた県立高校のあり方というものを考えていくべきだと思います。

そうした中で、報告書 10 ページの最終パラグラフのところで、「変化のスピードが従来の予測を越えて速まっている時代にあって、生徒たち一人一人が、この急激に変化する社会を生き抜く力をつけるための資質・能力をしっかりと身に付けられるよう、5年後、10年後といったスパンで取組みを検証し、見直しをしながら、実効性のあるものにしていく必要があります。」が新たに追加されているかと思いますので、この言葉を意識して、これから運営される県、或いは県立高校が、学校をしっかりと運営していただければと思います。

#### (委員)

これまで意見をさせていただいたことと繰り返しになるところもあるかもしれませんが、これまで、学科の目指す理念やそれぞれの学科について具体的な記載があればということをお願いしていました。そういったことを検討されて盛り込まれたため、小中学校を中心に教育環境を整えるよう日々努めている立場の者から見ても、このように県立学校では教育が進められているということがわかる報告書になったと思います。

先ほどの意見にもありましたが、これからこの報告書で掲げたものをいかに具体的に進めていくかということが、数年先の大きな課題だろうと思っています。県立高校と小中学校といった校種間連携も大切な鍵であると思っています。小中学校も地域の中にある学校の一つ、県立高校も地域の中にあり、大きな機能を持った場所だと思っています。県立、或いは私立の学校もあれば、公立の小中学校もあればという状況ですが、その地域という視点、視野をもって、この報告書をもとにしながら教育の充実ということを考えていくべきということを感じています。

例えば、4 ページに生徒の多様化ということが記載されていますが、小中学校では、これまでも特別支援教育や外国にルーツを持つ子どもの教育など、いろいろと工夫しながら取り組んできた側面があります。こうした子どもたちも地域にとっては欠くことのできない大切な存在ですので、小中学校のニーズと県立高校の思い描くことがマッチングというか連携を図っていくことができれば、よりよい富山ならではの教育の実現に繋がるのではないかと思います。

それから、この報告書の核の一つでもある、これからの子どもたちに求められる探究的な活動や探究の方法の学びというようなことも、小中学校にとって大きな課題だと思っています。発達段階に応じながらですが、高校との連携の中で、小中学生にもある程度早い段階から刺激を与え、学びの本質を捉えながら、より深い探究活動につなげていき、小中のレベルが上手く上がっていけば、高校での学びのレベルも高まるのではないかと思います。ですので、お互いに協力関係にあればよいと感じているところです。

(委員)

本報告書は、本当に素晴らしいものだと思っております。何事にも「目的」、「目標」、「具体的な取組み」という三つが大事だと思います。資料2の5ページ、6ページの基本方針の概要に、この「目的」に当たる基本理念、それから「目標」、「具体的な取組み」、具体的な数字についてはこれからだと思いますが、しっかりと論点がまとめられ、また方向性も示されたものと考えています。

特に、基本理念のところはパブリックコメントの最初にもありましたが、教育基本法第一条に基づいた3つの姿が示されたと思っております。

第一条、教育の目的。「教育は、人格の完成をめざし、平和的な国家及び社会の形成者として、真理と正義を愛し、個人の価値をたつとび、勤労と責任を重んじ、自主的精神に充ちた心身ともに健康な国民の育成を期して行われなければならない。」ということで、その個人の価値を尊ぶ多様性の尊重、また、主体的な自主的精神に満ちたという意味で、生徒自らが自分らしく、主体的に課題を発見し、かつ、具体策の中で勤労と責任を重んじ、実際の平和的な国家、社会の形成者を育成するという意味で、バランスよく網羅的にまとめたのではないかと考えています。

具体についてはこれからなのだと思いますが、多様な観点から優先順位がぶつかる場面が今後多々出てくるかと思えます。個人的な意見として、一番は生徒の皆さん、高校生の皆さんの人格の完成のために何が必要なかというところが優先順位として一番だと思います。その後には大切な考え方、観点として、教員の皆さんや具体的な予算というようなものも関わってくるでしょうし、卒業後の経済社会も含めた様々な社会的ニーズというものも必要でしょうし、地域コミュニティというものもあるので、そういった様々な観点からある意味バランスをとるといえるか、生徒にとっても、教師の皆さんにとっても、地域社会にとってもいいものを、ある程度バランスをとりながら教育基本法第一条にしっかり則った形で進めていくということが必要になるのではないかと考えています。

(委員)

皆さんおっしゃっている通りにこの報告書ができ上がったと私は思っています。

この報告書をいかに具現化していくかということがポイントであり、今ほどの委員もおっしゃった人格の完成という点について、資料3にある「多様な人々と協働」、或いは「ウェルビーイング」、「周囲の人間関係や地域社会との繋がり」ということから考えた時には、いわゆる認知能力といった見える学力ではなく、土台となる非認知能力が非常に大切になります。これを育てるためには、一つの方向性として、例えば、授業の中で子どもたちがもっとアウトプットする機会を設けること。我々も13人がここでアウトプットしていますが、これが4～5人くらいになるとキャッチボールするようにもっとアウトプットするわけです。こうした機会が義務籍でも意外と少なかったのですが、これが増えてきたことによって授業が随分変わってきています。

県立高校の方でも令和の魅力と活力あるということで、探究科学科等で工夫もしていらっしゃいます。それが教科の学習等でできているかということは、実際に見ていないためよくわかりませんが、本腰を入れてすべての教科において、もっとアウトプットし、子どもたちが多様な考えに触れる機会を充実させていくことが大事なのではないかと考えてい

ます。

不登校生徒が増えていることへの対応策が難しい状況ではありますが、そうした生徒たちの思いがどんどん出せるといった場が学校でなくてもいいかもしれませんが、学校でも必要ではないかと私は思っています。

(委員)

感想ですが、まずは検討委員会の意見を十分に反映させていただき、丁寧にまとめていただきました。本当に事務局のご苦勞には感謝申し上げます。ありがとうございました。

このように方針や方向性がある程度できましたので、今後は各学校が具現化に向けて一生懸命頑張ってくださいということになります。各学校が十分にそうしたことを進められるよう教育委員会の皆様には、ご指導、働きかけを是非ともお願いしたいと思えます。

少しだけ気になるところがあるのですが、6ページに新たに基本理念としてページが大きく作られました。7ページにも同じような図があるのですが、これは丁寧にしたということで、よろしいのでしょうか。何か異なる点があるのかと思いました。

それとウェルビーイングに関するとても大事な言葉で「生き生き」という言葉がいくつも出てきているのですが、「生き生きと生きられる」というのと「生き生きと生きる」という言葉はどうなのかなと思いました。それをよしとするならば、言葉の説明の方では「いきいきと」が平仮名であるのに対し、第2章では「生き生きと」が漢字になっているので、こちらも平仮名にするのか「生き生きと暮らせる」というような漢字にするなど、こういう大事な言葉は整合性があつた方がよいのではないかと思います。

(委員長)

今の指摘は、報告書のインテグリティという点において、同じ意味で使われたものであれば、最終段階で用語を統一し確認をしていただければいいのではないかと思います。

(委員)

まず、この報告書は、私も含めた様々な委員の方々のご意見をよく反映させていただき、非常に見やすくなっており、素晴らしい報告書だと思っています。事務局の方々にはお礼申し上げます。

一方、先ほど何名かの委員の方々からもご意見がありました。教育というのは生徒が成長していくことが一番大事ということになると思います。そのための方法として、例えば、探究的な活動や地域連携をするということが言葉として出てきたと思いますが、これまで私が受けていたような教育は、先生が私に話しかけ、受け身になってしまうという教育ばかりでした。先ほどアウトプットという言葉もありましたが、これからはキャッチボールをして情報交換しながら、教える方も互いに成長していくというのがこれからの教育になるのではないかと思います。

今回の報告書を拝見すると、IoTやICTといったようなデジタル技術を活用して、情報のやりとりを今後進めていくというキーワードがたくさんあるので、ぜひ生徒と先生間の情報の交換だけでなく、例えば地域の方々、連携する企業の方々、大学といった様々なところからのアウトプットとインプット、こちらの情報のやりとりを検討していただい

ればと思っています。

また、保護者や生徒の声として、アンケートを行っていますが、前回もお願いしたように、これを継続的に行うというか追跡調査するという形で、社会の流れも含めてしっかり情報収集をしていただき、この報告書に沿った教育を進めていただければと思っています。

最後に、先ほど I o T や I C T という話をしましたが、この報告書の用語集を見ますと、I o T はありますが、I C T がありません。I C T はもう有名になったので知っている方も多いかもしれませんが、もし可能であれば I C T も入れていただければと思います。

もう 1 点、アルファベットの記載について全角と半角が入り混じっているため、どちらかに統一していただければと思います。例えば、略語の I o T や I C T は全角にするなど、そういう形でそろえていただけると報告書も綺麗にまとまると思います。最後は中身の話ではなく申し訳ありませんが、よろしく願いいたします。

#### (委員)

報告書に関しては特に申すことはなく感想になります。

振り返るとこの協議はコロナの状況変化が激しい中で行われ、今ようやくマスクなしでもお話ができるようになり、対面でのコミュニケーションが円滑に図れるようになりました。その中で、コミュニケーションがとれるようになったからこそ、地域、大学、企業などとの連携をより強固に図っていく必要があり、生徒さんにいろいろなものや人に触れていただく機会を創出していくことが大切ではないかと感じています。

その上で、最終的に「富山県で教育を受けられてよかった」、「富山県でまた働きたい」と思ってもらえる子どもたちを一人でも多く輩出することが重要だと感じました。私たちはその子どもたちの模範となるような企業人である必要があり、関わり合う必要もあると感じています。

#### (委員)

報告書については、これまでの議論や意見はもとより、今回実施されたパブリックコメントにも適切に対応し修正されて、よいものになったと思っています。課題は今後、新たな検討の場に委ねられるのだと感じております。

1 点、報告書には直接関係ないのですが、多くの委員からソフト面的なところのご意見が多数出ました。実際そういうことを話し合う場であったわけで、それについては私も同感です。ただ、そのようなお話をずっとしている中で感じたことは、県立高校の校舎なのですが、耐震化や長寿命化計画のために学校によっては、鉄筋の大きな筋交いが入った学び舎で子どもたちが学んでいるという状況があります。子どもたちの安全面での応急措置としてはやむを得ない対応であったとは思いますが、子どもたちの成長を促す大人の気持ちからすると、こうした面についても改善を図っていく必要があるのではないかと感じています。こういう点については、なかなかこうした場で検討するということにならないと思いますが、昨今、小中学校では、学校再編統合に向けて新しい校舎を設置されるといった動きも報道されています。ぜひ、県立学校においても、再編統合は別として、こうしたことも検討していただければと思います。

(委員)

6つの方向性の中に学校の特色や魅力とありますが、アンケートの結果から自宅からの距離や時間などの通学条件という項目が成績の次に挙がっているのが、公共交通等の確保、これは教育委員会の仕事ではないと思いますが、そういった連携が必要になってくると思います。

また、各学科の目指す方向の中で、地域、大学、企業や学校間連携とありますが、これも県の教育委員会だけではなく、例えば市町村の教育委員会や県の他の部局、市町村の部局といった連携も必要になるので、こうした連携をしっかりとって進めていただければと思います。

(委員)

一保護者として、意見を述べさせていただきます。

別紙の47番に、「小規模校では定員割れを起こす学科もあったが、再編後は定員割れが減って、改善が見られた」ということが書いてありました。報告書46ページの再編後の結果を見ると、定員割れは減ってきているのかなとは思いますが、南砺福野高校は逆に少し定員割れとなっている結果となっており、少し気になるころでした。

また、保護者の方のお話ですが、ある生徒はA校がなくなったので学力的に合格する可能性の高いB校を受検したら、B校が定員オーバーしてその生徒は合格し、もともとB校を希望していた生徒が落ちてしまったということでした。二次募集で違う学校に通うこととなり、希望の学校に行けなかったということがありました。

再編をしていろいろな努力をされて、このような結果になっているのですが、今後ともこういった小さな意見も考慮しながら、定員割れしないような方向で進めていただけたらと思います。

(委員)

それぞれの委員の皆様方がおっしゃったことは本当にその通りだと思っています。それに加えて、もう少し大きな視点で意見を申し上げたいと思います。

この報告書は、前回も申し上げましたが、県立高校のあり方(案)ということなのです。県の高校のあり方ではなくて、県立高校に限定されています。例えば、今の文部科学省行政のちぐはぐな狭間の中で教育行政をやっていかなければいけない県の教育委員会の苦しいところが垣間見え、そういった意味でこの報告書は、言い方はきついかもしれませんが、これが限界なのだろうと思っています。

ですから、現制度の中で、最大限の中身を盛り込んだ報告書にはなっていると思いますが、先ほど申し上げた通り、これは富山県内の高校のあり方を議論した報告書ではないということが一つの課題として残っていると思っています。

もう一つは、先ほどからいろいろ新しい学びの話がありました。探究的な学びや対話型の学びがすごいという話があります。私もその通りだと思っており、そういう教育はこれからは当然求められますし、現実にも動いています。ただ、これらの学びというのは、基本的には基礎学力の担保があって成り立つことなのです。

その一方で、残念ながら、富山県内の高校を卒業した子どもたちは、「高校卒業」をクリ

アしているにもかかわらず、本来高校で習得すべき中身が習得されていない子どもたちがいることも現実です。

一人も取り残さない教育について、こうした子どもたちもしっかりと社会に出て働けるだけの力をつけさせてあげるといことは大事だと思っているので、こうした部分についての議論も必要になってくるのかなというのが二つ目の課題です。

この一つ目と二つ目の課題を合わせて、今後、どのようにすればよいか。日本は単線型の教育制度なので、基本的には高校まで行くというルールが敷かれています。ですから、小中高という三つのグレードを子どもたちは駆け抜けていくわけですが、駆け抜けていくという一貫通貫の視点がなかなか取れていないと思います。先ほどの委員からもありましたが、義務教育は基本的には市町村の管轄、高校は県立や私立の管轄のようなことになっているわけで、そういったものを取り払って子どもたちが一貫通貫で教育を受けていくという視点で、これからの富山県の教育のあり方を議論する場をぜひ作っていただきたいと思います。そうしなければ、富山県の未来はあまり明るくないような気がしているので、ぜひその点をお願い申し上げ、意見とさせていただきます。

(委員長)

欠席された委員からもご意見をいただいているので、事務局から紹介をお願いします。

(委員)

2点ございまして、1点目は報告書に関してです。

これまでの議論を整理され、また、前回の意見やパブリックコメントの意見なども反映されて取りまとめられ、いい報告書になったと思いますので、このままでも構いませんが、あえて申し上げますれば、よりすっきり見せるために報告書(案)の5ページから6ページに加えていただいた概要の部分をA3サイズで差し込みの形で入れてもらった方がわかりやすいのではないかと思います。

2点目は、今後の進め方についてです。

今回の検討は、先に行った再編の結果を検証し、次の再編や新たな教育システムの導入を検討するためのものと理解しています。

報告書の書きぶりでは、「丁寧に検討する」、「検討を進める必要がある」となっています。人口減少や教育の質の保証という大きな課題について、今後は31ページの下段に別途協議すると記載されていますが、今回の方向性に挙げられている中高一貫校の設置、バカロレア教育等の新たな教育システムの導入に関しても、他県の好事例などを研究、参考にされて優先順位を決め、富山県の特色ある確かな教育の場が作られるよう、先延ばしせず早急に検討し、実践へと進めていただくことを強く願っています。

(委員長)

まず、この2年間近く、皆様方に真摯なご発言をいただき、それを反映した報告書を教育委員会の皆様方が尽力されて作成されたことは、大変ありがたいと思います。委員長を引き受けた立場として皆様に厚く御礼を申し上げます。

その上で、教育の問題は非常に幅広いものであり、そして先ほどの委員からもありまし

たが、教育委員会の枠組みの中で収まらない様々な問題があります。例えば、小学校でも「小1の壁」や「小4の壁」などがありますが、これは学童、そしてご両親が働いていることとの関係で出てくる問題です。これは教育委員会だけでは解決がとてもできない問題です。

何を言いたいかという、「令和の魅力と活力ある県立高校のあり方検討委員会」という限られた中で、これだけ検討し、時間を使ったわけですが、実はここまで精緻なものが本当に必要なのだろうかということです。環境変化や今述べたような世の中の社会的課題の中における教育というものの見方を取り上げて、この報告書にかける努力をもう少し減らし、例えば厚生労働省にどのような働きかけをしていかなければならないのかというような視点が必要なのではないかと思います。高校卒業後に進学する方と社会人になる方には、大きなニーズの違いがあるわけです。例えば、人格の完成ということで議論していても、それを高校の中だけ行うことは大変難しいものがあるのではないかと思います。

富山県教育会では「富山教育」という雑誌を年に3回か4回出しており、今回富山県教育会会長として私が巻頭言を書くことになりました。まだ発行されていませんが、「アイデンティティ」という題で書かせていただきました。

今、ウクライナ侵攻において、ずっとウクライナが抵抗を続けているのは、国として、民族としてのアイデンティティをかけた戦いだからです。それだけアイデンティティが重要ですが、今は個人のアイデンティティを尊重しなければならない多様性の時代です。これは大変な課題です。それと同時に、その個人を受け入れる企業、或いは学校のような集団がどういうアイデンティティをもっているのかということをも明らかにしなければならない時代になってきました。従って、大学等は早くからスクール・ポリシー、或いはミッションを明らかにせよとされ、それが高校にも拡大されたわけです。

一言だけ書かせていただいたことは、県立高校の場合どうなのかということです。特に普通科のある高校は学区制をとっていますが、この会議の議論にもあったように、相当違うスクール・ポリシーがある普通科に行きたいと思った場合、今の学区制と残念ながら相容れないわけです。学区制を設ける限り、少なくとも普通科高校については、基本部分は同じスクール・ポリシーでなければなりません。そうでなければ、子どもたち、或いは保護者の混乱を招くこととなります。教育委員会の皆様に少し辛口で言うと、文科省からの様々な指示に対し、内部でご議論された上で指示を各学校にされているか。スクール・ポリシーを突き詰めていくと残念ながら学区制と相容れないところもあるので、少し気になったところです。

それから皆さんがおっしゃった通り、教育の問題は本当に幅広いところにあり、これはあくまで高校教育、しかも県立高校の高校教育の枠組みを決めただけです。現実には、教職員の皆様が生徒に向かって教育を行っていただいているわけなので、大学教員の場合だと、FD、ファカルティ・ディベロップメントという概念があります。教育に携わる教員の資質向上のためにどのような能力開発を行っているかということです。

この会議体の中でも「学校マネジメントの話がほとんど出ていない」という議論がありましたが、枠組みの議論だけで終わっていて、実際には今のIT時代、そしてITデバイスも配られた中で、教職員の皆様のそれに対応したレベルアップがないとただデバイスを配っただけに終わってしまうので、ファカルティ・ディベロップメントに当たるような教

員、職員の皆様の能力開発、時代に沿った研修がどのように実行されているのかということがほとんど議論されていなかった。また、情報の開示もなかった。こうした点でいうと、この枠組みだけにこれだけ時間をかけていいのか、それ以外のところで大切なことがたくさんあるのではないかと思います。今後は高校教育の問題を議論していく中で、県民の皆様にその辺の情報も開示していただき、大きな社会的課題の中における教育のあり方、そして高校教育のあり方を議論していただくということが必要ではないかと思います。

いろいろと申し上げましたが、基本的には教育委員会の皆様のお力を発揮していただき、先ほどの委員からも「5年間はもつのではないか」という話や皆様からも「立派な報告書だ」というご意見をいただきました。本当にありがとうございました。

ただ、数名の委員から「てにをは」についての指摘がありましたが、報告書としてのインテグリティ、完成度を高めていただくことで、一読された方の理解がより高まるのではないかと思います。そこを最終的に詰めていただければと思います。

議事が終了したので、委員長が終了を宣し、進行を事務局へ戻した。

## 5 教育長挨拶

(事務局)

最後に教育長が一言ご挨拶申し上げます。

(教育長)

金岡委員長様はじめ、委員の皆様には本当にお忙しい中、令和3年の夏頃から長い期間にわたり、この会議で非常にご熱心にとくさんのご議論をいただき、心より御礼を申しあげます。おかげさまで報告書の形に取りまとめることができましたことを深く感謝を申しあげます。ありがとうございます。

また、本日も大変貴重な具体的なご意見を頂戴しました。より正確な記載をして、最後の詰めを行いたいと思います。

この2年近くの会議での資料や議事録などを読み返していましたが、本当にたくさんのご意見を頂戴しました。これから必要な力としては、何回も出てきました課題発見や課題解決の力、コミュニケーション能力、多様な他者と折り合いをつける能力、グローバルに活躍できる力、ICTの活用能力、内発的な動機づけができるようにということや自立性を高めることが大事だというご意見を頂戴しておりました。この報告書の基本理念に何とかまとめることができたのではないかと思います。

また、普通科や職業科、総合学科などそれぞれの学科のあり方についてもたくさんご意見をいただき、「いわゆる試験の点数で学校を選ぶのではなく、何を学びたいか、その学校では何を学べるのかということ踏まえた上で、学校を選び、学校の中でいきいきと学べるようにしてほしい」というご意見、また、「いずれの学科でも、卒業時の進路選択の幅を確保できるような仕組みを求めたい」、「あまり専門科目にとらわれすぎずに広く学びを体験できるようにしてほしい」、「社会との連携、地域社会や企業との連携をもっと進めて開かれた学校にしてほしい」というご意見をたくさん頂戴しました。

また、特色ある取組みも始まっていますが、それを点ではなく線に、さらに面に広げて

欲しいという意見があり、その際に「もっと企業や社会を頼ってくれ」というような心強いお言葉も頂戴しておりました。さらに「特色ある取組みなどの行っていることをもっと情報発信すべきで、中学生や地域社会に発信して欲しい」というご意見をたくさんいただきました。

また、障害をもつお子さんや外国にルーツがあるなどの多様なお子さん、誰一人取り残さない教育をしっかりと進めて欲しいという声もありました。

この検討委員会の中でアンケートも実施し、「高校で何を学びたいか」、「選ぶ上で何を重視するか」や「高校の規模」などについても意見を聞きましたし、高校配置の全体像についてもお聞きしたところ、「学級数が多い学校から少ない学校までバランスよくあることが望ましい」といったようなご意見が多かったことなどもわかりました。

本当にたくさんのご意見をいただきましたが、今日のご意見でもあったように、今後の急速に進む少子化を考えると、この報告書は5年くらいはもつというお言葉を頂戴しました。やはり期限があるのだろうと思っており、引き続きの検討を望みたいというご意見も頂戴いたしました。

こうした議論を受け、教育委員会では早速、予算的なことなどで対応できることということで、今年度、プロジェクト学習やSTEAM教育に取り組む学校を支援するための予算額を拡充するといったことをいたしました。

また、地域との連携を進めて探究活動を充実できるためのコーディネーターの配置をし、そうした学びをサポートする体制も整えたところです。

さらに、各学校での取組みを動画にして発信できるような予算も確保し、現在その準備をしているところです。

こうしたように、できることに着手しているところですが、今後のあり方ということについては、引き続き検討を進めていく必要があります。今回この報告書を取りまとめさせていただきますが、今後できるだけ速やかに次の新たな検討の場を設置し、高校再編なども含み、高校の配置、学校の規模、学科・コースの見直しなども含めて基本的な方針について丁寧に検討を進めていきたいと思っています。丁寧にということですが、今日のご意見でも先送りせず、早急にといったご意見も頂戴しました。丁寧にかつ、スピード感を大事にし、しっかりと検討していきたいと思っています。

間もなくG7、教育大臣会合もここ富山で開催されます。大臣会合では、これからのコロナ後の教育について議論されると伺っています。イノベーションや成長を目指す人材育成、グローバル化というようなこともテーマになっているようです。そうした議論が富山でなされるということも非常に貴重なことで、そこでの議論などもしっかりと勉強していきながら、今後の教育充実につなげていきたいと思っています。

委員の皆様には、どうか今後とも引き続き、富山県教育のためにご支援、ご協力、ご指導をいただきますよう、何卒よろしくお願いを申しあげまして、お礼の挨拶とさせていただきます。

本当にありがとうございました。

## 6 閉会

11時05分、司会が閉会を宣した。